

**～あなたの生活に役立つ情報が満載の新潟鍼療センターからのたよりです～**



挿絵 が含まれている画像

自動的に生成された説明

こんにちは、院長の山田です。残暑が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。と気軽に申し上げましたが、この「残暑」という言葉は一体いつまで使ってよいのでしょう。調べてみると、**残暑とは立秋を過ぎてからの暑さのこと**で、**終わりは特に定められていません。**「8月いっぱいまで」という慣例があったのも、今は昔。最近では、9月に入っても（10月も？）使いたくなるような暑さです。さて、**9月には「」**という美しい呼び名もあります。私はこれまで、秋が深まり、月夜が長くなるから「長月」なのだろうと、なんとなく思っていましたが、他にもいくつか説があるようです。例えば、**稲の収穫期が始まる**ことから**「」「」と呼ばれていたものが変化して「長月」になった**ともいわれています。もうひとつ9月で思い出す風物詩が**「十五夜」**——**中秋の名月**です。旧暦の8月15日、新暦で**9月7日から10月8日の間**は、**空気が乾燥して光の散乱が少なく、月がほどよい高さに昇る**などの理由で、**一年で最も満月が美しい**とされています。もっとも**今年の十五夜は１０月6日**なので、ちょっと気が早いですね。そんなお月見といえば、**ススキと団子をお供えする習慣**があります。これは稲穂に見立てたススキと米から作られる団子を供えることで収穫に感謝し、翌年の豊作を祈るためといわれます。ここで改めて気づくのが、この季節の行事や風習が、日本の「稲作文化」と深く結びついているという事実です。今年は、**「古米」「古古米」「古古古米」といった言葉を多くの方が初めて耳にする**など、米不足の話題で持ち切りでした。あたりまえのように食卓に並んでいた米を、ここまで気にすることになるとは！**今年の新米の収穫予測は「平年並み」**とされていますが、天候不順の影響などで品質や収穫時期にばらつきが出る可能性もあり、予断を許

さない状況です。便利さや効率ばかりが重視されがちな今、私たちの暮らしがいかに自然環境と

結びついているか改めて思い知らされます。季節の変化と自然のリズムを感じながら、感謝を忘

れず生活していきたいものですね。そして何より、「おいしいお米」が安心して食卓に並ぶ日が

戻ることを、心から願っています。　　　　　　　　　　新潟鍼療センター院長　山田敏夫

発行/ 新潟鍼療センター 〒950-0087　新潟市中央区東大通2-10-13　　☎025-244-1189

ホームページ　http://hari-niigata.com 　　　　Ｅメールhariniigata@sky.plala.or.jp

新潟鍼療通信

